

ご 回 答

1、なぜ、切符（乗車券）と IC カードで運賃が違う申請をなされたのでしょうか。

当然、認可されていることを前提に質問しています。

磁気乗車券と IC カード乗車券での運賃が異なるのは JR 線の駅を発とし、私鉄（東京メトロ千代田線）を経由して、再度 JR 線の着駅までご利用になる場合ですが、磁気乗車券の場合は目的地を確定して発売を行うことから、弊社と関係各社局とで定めた連絡運輸区域の範囲内において、前後の JR 線の営業キロ数を通算して JR 線の運賃を計算し、私鉄（東京メトロ）の運賃を合算した運賃で連絡乗車券を発売しております。しかしながら、IC カード乗車券の場合、あらかじめ全区間の行程を確定することができないため、JR 線、私鉄、JR 線の改札機を通るごとに区切った運賃計算になってしまうために運賃の差異が発生してしまいます。このため IC カード乗車券独自の規則を設けております。

2、チャージ（先払い）している分、一般的には IC カードでの運賃が安くなって当然だと思いますが、ほとんどの区間で IC カードでの運賃が高くなっているのは、なぜでしょうか。

IC カード乗車券はお客さまが切符を購入する手間をなくすこと、Suica 定期券の場合は乗越し時にチャージからの自動精算及び物販購入等を目的としており、チャージ行為（先払い）での運賃割引のお取扱いはしておりません。また、前段での回答にありますように、JR 部分を区切って運賃を計算した場合には、多くの区間において前後の JR 部分を通算して計算した運賃に比べ、高くなってしまいます。そのため、常磐線（亀有～取手間）→東京メトロ千代田線（北千住～西日暮里間）→山手線各駅、中央線（東京～新宿）、埼京線（池袋～赤羽）間各駅、京浜東北線（品川～蕨）間各駅、尾久駅の区間に限定し、IC カードをご利用いただきやすくする目的で出場駅の自動改札機で磁気乗車券との運賃差異を少なくするため 100 円割引を行っております。

3、別紙の運賃表は、IC カードで北千住乗換の場合にも適用されるのでしょうか。例えば、亀有駅から上野駅まで北千住駅経由で切符では 210 円ですが、IC だと違う運賃の場合があるのでしょうか。

理由は、御社の資料に「当駅から東京メトロ千代田線（北千住・西日暮里を経由して～）」と記載されています。

亀有～上野間を乗車する場合で北千住で常磐快速線にお乗換えの場合は、全区間 JR 線にご乗車されるものとして取扱い、全区間 JR 運賃にて計算することになりますので磁気乗車券も IC カード乗車券も同じ運賃（210 円）になります。常磐緩行線は東京メトロ千代田線と相互直通運転を行っていることから、そのまま直通してご乗車になった場合は北千住～西日暮里間が東京メトロ千代田線になります。そのため「亀有～（JR 線）～北千住～（東京メトロ千代田線）～西日暮里～（JR 線）～上野」で乗車した場合は JR 線のみ利用した運賃とは異なります。

4、例えば、亀有駅から西日暮里駅経由の中野駅行きの定期券を購入する場合、450 円と 580 円のどちらの運賃を根拠として定期代が決定されるのでしょうか。

定期券はあらかじめお申出いただいた区間、経路ごとに発売させていただいており、磁気定期券と IC カード定期券では同一の定期運賃になります。定期運賃は 1 キロごとに応じて定期券独自の運賃を算出した表定制となっています。従って、普通運賃のキロ区分や設定方とは異なりますのでご理解を賜りますようお願い申し上げます。

また、JR 線の駅を発とし、私鉄（東京メトロ）を経由して再度 JR 線の着駅までご利用される場合は磁気乗車券と同様に前後の JR 線部分（亀有～北千住、西日暮里～中野）のキロ数を通算して定期運賃を算出します。

5、例えば、亀有から西日暮里駅経由の新小岩駅行きの切符は自販機では買えません。しかし、定期券は一枚で窓口で買えるが、この場合、どの運賃を根拠に定期代がきまるのでしょうか。